

# 平成31年度（令和元年度）「全国学力・学習状況調査」の結果について

令和元年12月

八千代市教育委員会

## 【公表にあたって】

本年度における八千代市の児童生徒の調査結果の概要とその分析、また、これからの取組を公表いたします。

本公表は、「平成31年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」の「8. 調査結果の取扱い」における「(4) 調査結果の活用ア（ア）各教育委員会及び学校等においては、多面的な分析を行い、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握・検証し、保護者や地域住民の理解と協力のもとに適切に連携を図りながら、教育及び教育施策の改善に取り組むこと。」に基づいて行うものです。

よって、本公表が目指すところは、保護者や地域の方々のご理解とご協力をいただき、子どもたちの学習状況の改善を図っていくことです。

本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面ではありますが、今後、調査結果を活用した改善方策の実施に取り組んでまいります。

## 【平成31年度（令和元年度）における調査の概要】

### 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日 平成31年4月18日（木）

3 調査対象 小学校第6学年，中学校第3学年

4 調査内容 (1) 教科に関する調査（小学校…国語・算数，中学校…国語・数学・英語）  
・「知識・技能」「活用」に関する問題  
(2) 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査  
・児童生徒に対する調査 ・学校に対する調査

## 結果を受けて「八千代市としての取組」

### □教職員の資質向上

・教職員の資質を高め、児童生徒（子ども）一人一人を大切にしたいきめ細やかな授業を行う。

### □言語活動の充実

・国語科はもとより、さまざまな教育活動を通して子どもたちが思考する時間を確保し、一層、言語活動（話す・聞く・書く・読む）を充実させる。

### □読書活動の充実

・各学校で朝の読書の時間や読み聞かせなど、読書の時間を充実させ、読書を奨励する。

### □理数教育の充実

・算数・数学に対する関心や学習意欲を高め、内容の理解につながる授業づくりに取り組む。

### □英語教育の充実

・まとまりのある英語を読んだり、聞いたりし、概要を理解する力や自分の考えを発信する力の育成に取り組む。

### □各学校と家庭・地域社会の連携

・道徳教育・人権教育の充実を図るとともに、地域の中で活躍できる子どもの育成を目指す。

### □分析結果の活用

・各学校において分析した成果や課題を、全教職員で共有するとともに、保護者へ周知していく。

## 「教科に関する調査」の結果の概要と分析

\*文末の( )内は、「平均正答率(本市—全国)」を表す

### 小学校・国語

#### 〈成果〉八千代市の児童がよくできた問題

- ・『学年別配当漢字表に示されている漢字を文の中で正しく使う』 (77.9%—69.4%)
- ・『図表やグラフなどを用いた目的を捉える』 (72.7%—71.7%)

※児童質問紙「国語の勉強は好きですか」「国語の勉強は大切だと思いますか」などの項目は、「よくあてはまる」と答えた割合が全国よりも高い。児童の国語への関心・意欲の高さが、今回の結果につながったと考えられる。

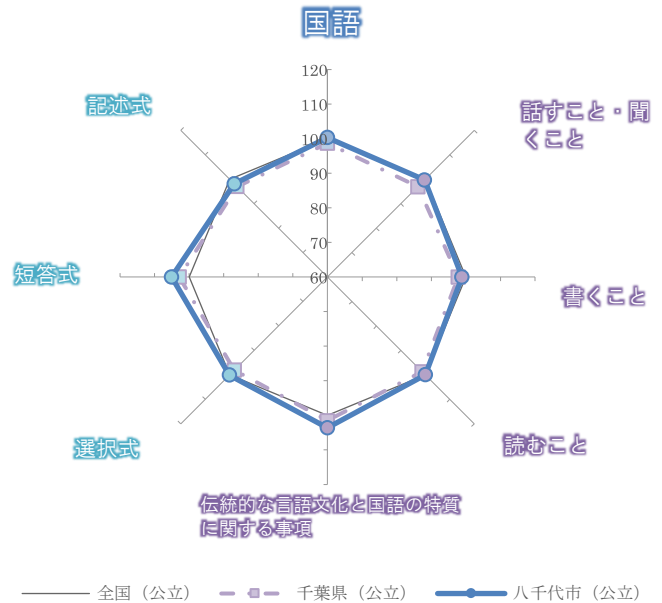
#### 〈課題〉八千代市の児童が苦手とした主な問題

- ・『話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる』 (66.0%—68.2%)
- ・『情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える』 (61.7%—63.4%)

※記述式の設問に課題が見られた。全国平均正答率が57.6%に対し、本市は56.5%であった。また、無回答率も全国より下回っている。書くことに対して苦手意識が強いことが原因と考えられる。

小学校	八千代市	全国
国語	64	64

※表内の数字は小数第1位を四捨五入した平均正答率  
全国(公立)の平均正答率を100とした場合の相対値



### 中学校・国語

#### 〈成果〉八千代市の生徒がよくできた問題

- ・『話し合いの話題や方向を捉える』 (82.5%—80.4%)
- ・『封筒の書き方を理解して書く』 (58.2%—56.8%)

※「話すこと・聞くこと」の分野では全国平均正答率が70.2%に対し八千代市は70.8%と0.6ポイント高い。授業中での対話的な学び(グループ学習等)の場面への意識が高まり、話す機会・聞く機会が増加したことにより、「話題についてとらえることができる」ことが成果につながったと考えられる。

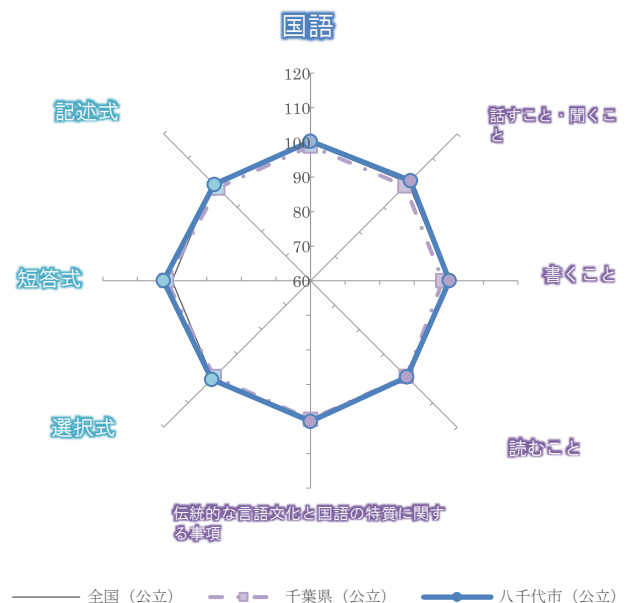
#### 〈課題〉八千代市の生徒が苦手とした主な問題

- ・『文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える』 (63.5%—63.9%)
- ・『伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く』 (77.0%—77.8%)

※領域では「書くこと」の分野で、条件のある中で文章を書くことに課題が見られる。条件をしっかりと把握したうえで、求められているものに従って書くことへの意識が必要だと考えられる。

中学校	八千代市	全国
国語	73	73

※表内の数字は小数第1位を四捨五入した平均正答率  
全国(公立)の平均正答率を100とした場合の相対値



## 小学校・算数

〈成果〉八千代市の児童がよくできた問題

- 『示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる』 (45.4%－43.9%)
- 『目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができる』 (83.7%－82.7%)

※「記述式」に関する問題は全国の平均正答率とほぼ同じであり、特に求め方の説明を記述する問題については全国と比較し高い割合であった。授業の中で、図と式を関連付けて考えたり説明したりする機会を取り入れていることが成果として表れていると考えられる。

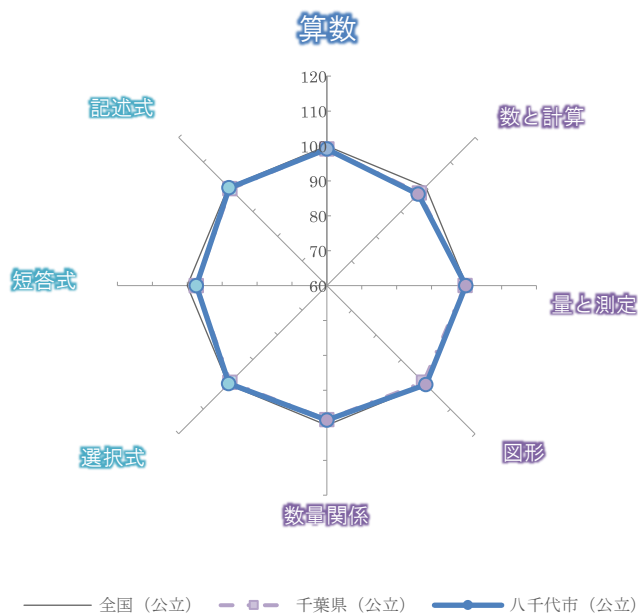
〈課題〉八千代市の児童が苦手とした主な問題

- 『加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる』 (56.8%－60.1%)
- 『示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる』 (78.7%－81.8%)

※「短答式」は、全国の平均正答率が72.8%であるのに対し本市は70.9%であり、特に「数と計算」、「数量関係」に課題がみられる。

小学校	八千代市	全国
算数	66	67

※表内の数字は小数第1位を四捨五入した平均正答率  
全国（公立）の平均正答率を100とした場合の相対値



## 中学校・数学

〈成果〉八千代市の生徒がよくできた問題

- 『グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができる』 (41.4%－38.8%)

- 『反例の意味を理解している』 (79.2%－77.2%)

※「選択式」で解答する設問は、全国の平均正答率を60.3%であるのに対し本市は61.1%であった。正しい知識をもとに適切に判断することができており、基本的な知識の定着が図られて成果を上げることができたと考えられる。

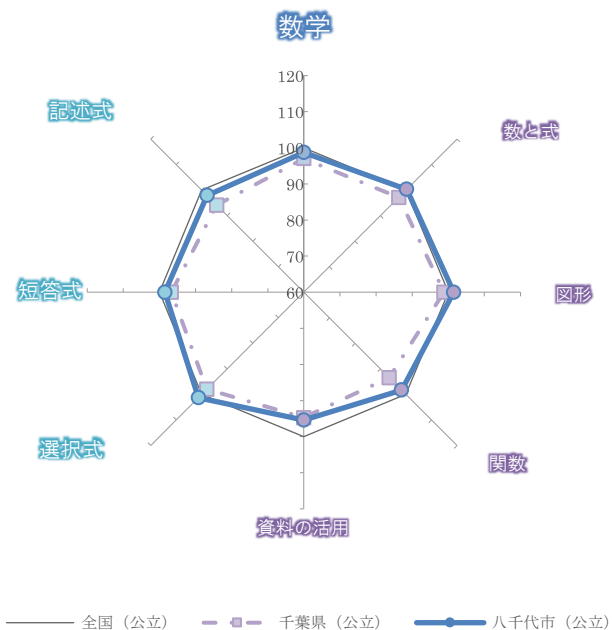
〈課題〉八千代市の生徒が苦手とした主な問題

- 『反比例の表から、xとyの関係を式で表すことができる』 (45.2%－48.9%)
- 『資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる』 (54.5%－57.9%)

※「簡単な場合について、確率を求める」、「資料を整理した表から最頻値を読み取る」、「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」など、主として「資料の活用」に関する問題に課題がみられる。

中学校	八千代市	全国
数学	59	60

※表内の数字は小数第1位を四捨五入した平均正答率  
全国（公立）の平均正答率を100とした場合の相対値



## 中学校・英語

### 〈成果〉八千代市の生徒がよくできた問題

- ・『日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる』  
(81.9%－74.4%)
- ・『与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる』  
(38.6%－32.9%)

※「選択式」「短答式」で解答する設問は、平均正答率が全国を上回っていることから、基本的な知識の定着は図られていると考えられる。

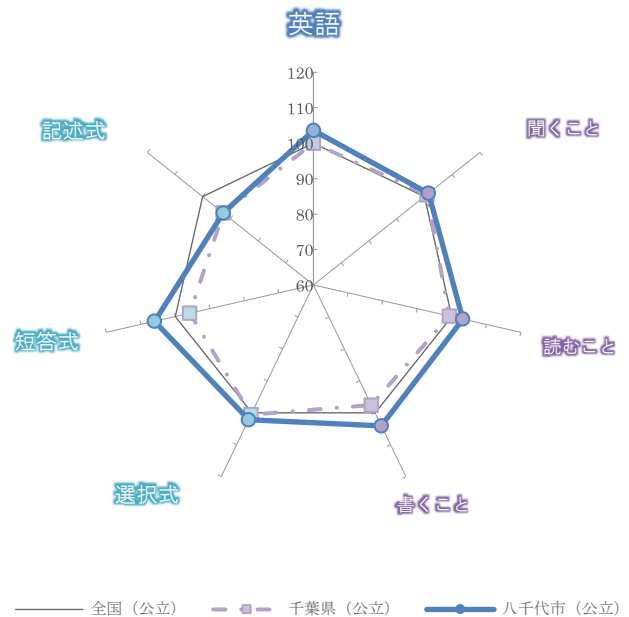
### 〈課題〉八千代市の生徒が苦手とした主な問題

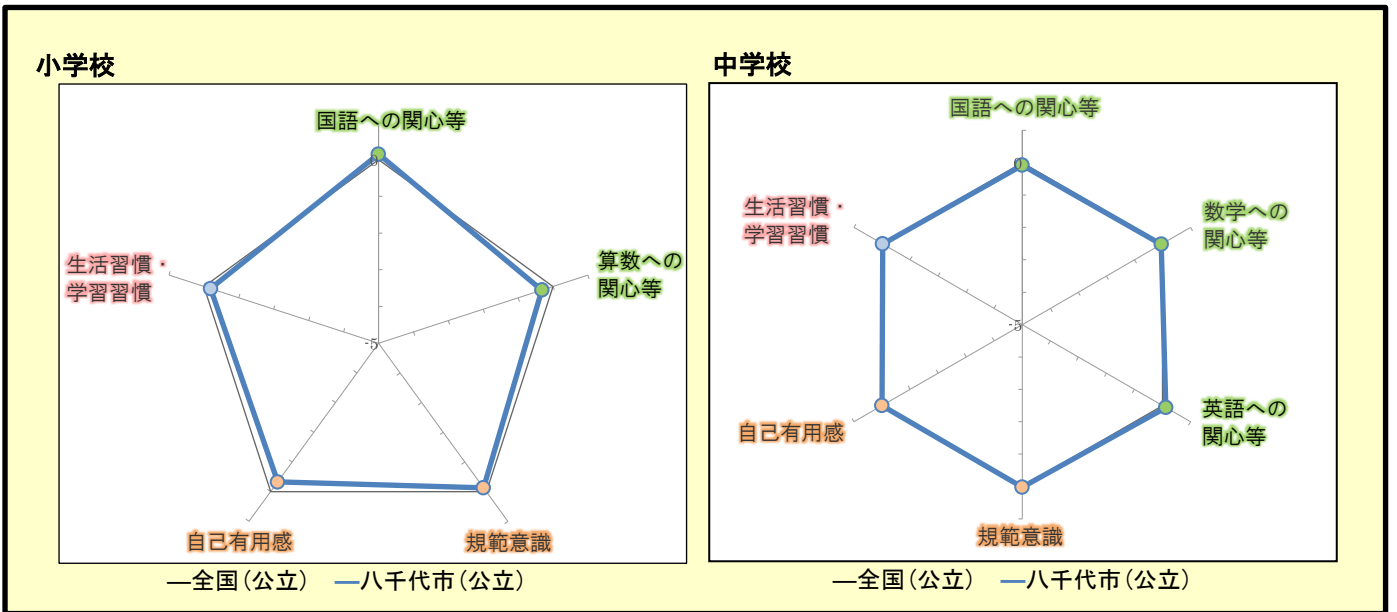
- ・『まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる』  
(68.9%－71.8%)
- ・『まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる』  
(60.8%－62.9%)

※上記の結果から、まとまりのある英語を読んだり、聞いたりし、話の概要を理解することに課題がみられた。また、「記述式」の設問の正答率が、全国の平均正答率6.8%に対し、本市は、6.3%となっており、発信する力においても課題がみられた。

中学校	八千代市	全国
英語	58	56

※表内の数字は小数第1位を四捨五入した平均正答率  
全国（公立）の平均正答率を100とした場合の相対値





「児童・生徒質問紙調査」の結果の概要（小中学校）※抜粋

\*文末の( )内は、「肯定的回答率(本市—全国)」を表す

〈学習に対する関心・意欲・態度〉

- ・「学校に行くのは楽しいですか。」 小学校 (88.6%—85.8%) 中学校 (82.9%—81.9%)
- ・「読書は好きですか。」 小学校 (77.7%—75.0%) 中学校 (73.0%—68.0%)
- ・「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか。」 小学校 (72.3%—68.6%) 中学校 (64.0%—62.4%)
- ・「国語の勉強は好きですか。」 小学校 (71.0%—64.2%) 中学校 (77.3%—74.8%)
- ・「学級みんなで話し合っって決めたことなどに協力して取り組み、嬉しかったことがありますか。」 小学校 (79.8%—84.1%) 中学校 (83.2%—82.8%)
- ・「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」 小学校 (54.1%—68.0%) 中学校 (46.9%—50.6%)

※生活に関わる質問については、小中学校共に学校を楽しんでいる割合は全国平均より高い。  
 ※教科の関心・意欲・態度に関わる質問について、読書に関する意欲は小中学校共に全国平均より高い。  
 ※教科に関わる質問については、国語や英語に関するものは全国平均よりも高い項目が多い。  
 ※学級生活に関する質問については、小学校では全国平均よりも低い項目があるが、中学校では全国平均より高い項目がある。  
 ※地域・社会に関する興味・関心は、小中学校共に全国平均より低い。

〈規範意識・自尊感情〉

- ・「学校の規則を守っていますか。」 小学校 (94.3%—92.5%) 中学校 (97.5%—96.2%)
  - ・「将来の夢や目標を持っていますか。」 小学校 (84.7%—83.8%) 中学校 (69.5%—70.5%)
- ※規範意識に関わる質問については、小中学校共に、どの項目も全国平均と同程度であり、高い水準を保っている。  
 ※自尊感情に関わる質問については、小中学校共に、どの項目も全国平均と同程度である。

〈学習の基盤となる活動・習慣〉

- ・「朝食を毎日食べていますか。」 小学校 (94.5%—95.3%) 中学校 (92.6%—93.1%)
  - ・「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。」 小学校 (81.3%—81.4%) 中学校 (76.7%—78.0%)
  - ・「毎日同じくらいの時刻に起きていますか。」 小学校 (91.2%—91.6%) 中学校 (92.2%—92.8%)
  - ・「家で自分で計画を立てて勉強していますか。」 小学校 (68.6%—71.5%) 中学校 (48.6%—50.4%)
- ※生活習慣に関わる質問については、小中学校共に、どの項目も全国平均と同程度である。小中学校共に朝食を毎日食べていると答えた生徒の割合が全国平均より低い。  
 ※家庭での学習に関わる質問については、全国平均と同程度である。「授業の予習・復習」に関しては、小中学校共に、全国平均より低い。